

私のランドセルへ

ありがとう。私のランドセル。

君は、私が学校に行くときも帰るときも、ずっと私の背中にいて見守ってくれていたね。授業のときも、そばにいて、私が発表したりノートにまとめたりするのをやさしく見守ってくれていたね。君が私と出会ってから、もう5年以上もたったんだね。

君と出会ったのは、私が幼稚園の年長組のときだったよね。君が初めて私の家に来たとき、私がどんな反応をしたか覚えてる？うれしくてうれしくて、君を背負ってはねたりとんだり。早く学校で使ってみたいと思っていた。

だけど、だんだんとお別れのときが近づいて来る。時間が経つのが早いね。1年生のときは、小学校が6年間あることが「十分長い」と思っていた。でもちがった。6年生まではあっというまなのだ。そして今、私は6年生だ。「6年生になったら、人のことも考えられる、よりそってあげられる「大人」になりたい!」と思っていた。が、いざなってみると難しい。人のことまで考えて動けるような余裕がないときだってある。自分の考えた通りにならないことだって

ある。そんなときも、そばについていてくれたよね。きっと、そんな私に「大丈夫だよ。そんなときもあるよ。」って、なくさめてくれていたんじゃないかな。君もしゃべれたらいいのにね。そしたら君の気持ち、分かるのにね。

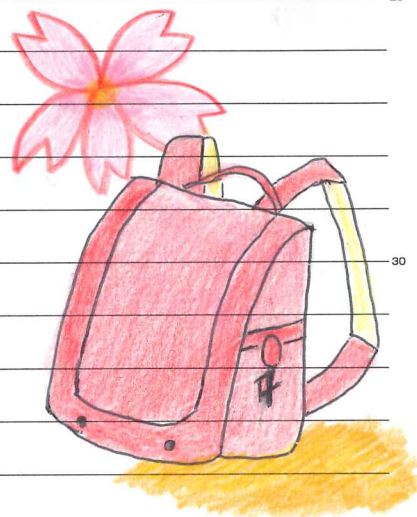
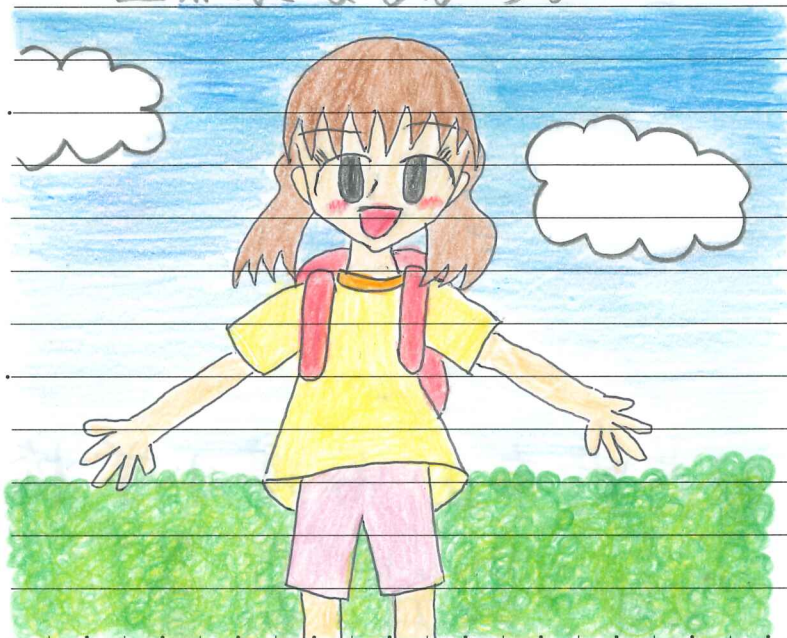
でも、ランドセルはしゃべれない。しゃべれないものはもの。だって「もの」なんだから。それでも私は信じているよ。だまっていたても、私の成長を見守ってくれていること。ものだって大切に使っていれば、例えランドセルだとしても「ありがとう」と思っているはず。

少しずつ少しずつ、君といられる時間が短くなっていく。そして私は成長していく。次に向けて一歩、また一歩と。今日の私から明日の私、明日の私から明後日の私へと。少しずつ少しずつ、成長していく。

君とお別れしても、君はずっと大切なものだよ。ずっとずっと。君との楽しかったりうれしかったりした色々な思い出は絶対に忘れないよ。そして君のことも。

いつまでも、私の成長を見守っていてね。
立派になるから。

白石 莉菜より



習志野市立 谷津小学校
6年 白石 莉奈

ありがとう

ランドセル